

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「楽しいロータリーで
つながろう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「地域、次世代と共に、
明るく!楽しく!!朗らか!!!に
奉仕を実践しよう」



2019～2020年度

国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー
2560地区ガバナー 大谷 光夫
高田ロータリー会長 高坂 光一
幹事 高橋 正彦

事務局:新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp
例会場: デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 公一 宮川 大樹 藤林 陽三 山田 守
木村 隆

第9回例会 ■ 9月6日(金)

No.9

会長挨拶 ● 高坂 光一

暑さが戻りました!ご自愛ください



いよいよ地区大会まで50日となりました。準備も着々と進んでいます。みんなで「お・も・て・な・し」の心で盛り上げていきましょう!

今月は基本的教育と識字率向上月間です。世界には貧困や紛争、近くに学校が無いなど様々な理由で学校に行けない子供が約1億2千万人、教育の機会を得ず、大人になっても読み書きのできない人が7億5千万人以上います。それらの原因を改善するため、RCでは世界各地で学校を造る、図書や備品を送る、教師の育成などの活動を行っています。その他にも不十分な衛生環境による問題を抱える人々も世界には多くいます。基本的教育と識字率向上は、それらのリスクを理解し、予防対策に結び付き健康被害の軽減に結び付く希望と感じます。現在、普通に生活をおくる私も、そのことにもっと感謝し、私達の普通を少しでも広めていけたらと考えます。

先日、東大寺で開かれた上教大 川村先生の東大寺講座「二月堂観音の図像と密教図像集」に参加しました。その中で「一つの物を確定する為に、関係資料を世界中に探し、全て検証しなければならない」という言葉が印象的でした。この言葉は「地域を知るには日本を、日本を知るには世界を知る」ということに通じると捉えます。私はRCで幹事・地区出向を通じて多くの方々にご縁を頂き、いろいろ得ました。これからもご縁を増やしていこうと考える今日この頃です。

出席報告

出席率 97.96%

ビジター

金子 茂君、池田喜一郎君 (新井 RC)

メイクアップ

羽深耕時君 (8/27 直江津 RC 卓話)
大谷光夫君・橋詰敏一君 (9/3 村松 RC・五泉 RC・阿賀野川ライン RC 公式訪問)
大谷光夫君・本山秀樹君 (9/4 佐渡南 RC・9/5 佐渡 RC 公式訪問)
大谷光夫君・石倉 悟君・箕輪賢一君・飯塚宏佳君 (9/8 アクトの日)

お客様スピーチ

金子 茂様、池田喜一郎様——新井 RC 創立 60 周年記念事業のご案内



セレモニー

米山記念奨学金贈呈 周 勝男さん

委員会報告

米山奨学委員会——寄付のお願い
国際奉仕委員会——国際大会のご案内
本山地区幹事——佐渡 RC バナーの紹介

会員インフォメーション

橋詰米山カウンセラー——周さんの論文が日本学校教育学会年報（創刊号）に掲載されました

幹事報告

回覧：ガバナー月信9月号、米山梅吉記念館館報

ガバナーインフォメーション

今後の公式訪問予定

9月17日 新潟中央 RC

18日 水原 RC・豊栄 RC

会員卓話 教育と健康・福祉の街:上越!



の
歴

私たちの住んでいる上越市は北陸新幹線が開通し、東京から1時間48分のところにあります。また、今から100年前の高田城開府300年記念の時は、高田の街は一体となり、大イベントを挙行了しました。正確には1913年のことですが、信越線につなぐ北陸本線が全通しました。大隈重信早稲田大学総長の特別講演や日本ではまだ珍しい飛行機の空中ショーを行ない、2日間のこの大きな祭りで高田駅に出入りした人々は人口のおよそ8倍の24万人であったそうです。その時の高田日報の記事にはこうありました。「大正の越府高田は、新潟、長野、富山の三県結ぶ天与の地理上の価値を発すべき」と。

こうした地政学的に優位な位置にあるこの上越という街には、さらに特色のある医療福祉分野で活動しているところがたくさんあります。まず、川室記念病院があります。現在は認知症治療を中心とした総合病院ですが、もともとは川室道一が明治11年（1878）に川室眼科医院として開院し、そののち昭和20年（1945）に眼科を廃し、内科と神経科を併業されたのです。

次に、高田城御典医で16代続く藤林医院です。この病院も、創設時にはサナトリウムを併設していました。その当時、不治の病といわれた結核の療養病院としてスタートしています。

さらに、この地には注目される病院があります。それは知命堂病院です。ここに、大正時代に大関知（おおせきちか）という看護師がいました。彼女は日露戦争での負傷者を一手に引き受け、その治療にあたった人といわれています。19世紀末、日本にナイチンゲール方式の看護教育が英米の婦人宣教師らによって行われ、ここから日本の近代看護教育が始まるのですが、その教育を受けた看護婦は少数で Trained - Nurse と呼ばれました。大関知は我が国最初の Trained - Nurse の一人であったのです。その大関は明治24年11月29日に知命堂病院の婦長に就任しています。

今はもうなくなってしまったのですが、旧高田の郊外には高田盲学校という施設がありました。ここはヘレンケラーの影響を受け、生涯を視覚障害者教育に捧げた栗津キヨがおりました。この学

渡邊 隆君

校で聴覚障害に苦しむ多くの子どもたちの育成が行われたのです。

ここに掲げた川室記念病院、藤林病院、知命堂病院と高田盲学校はそれぞれ、精神病、結核病、特別支援に関わる施設です。これらは私たち人間の弱者に対する思いやりと、それを強く支えようとする人としての志の象徴です。

さらに初等教育に目を向けると、高志、大町、大手町、上教大附属小学校などは100年を超す歴史をもつ小学校です。この街を支える子どもたちの気持ちをしっかりと育てています。

医療と健康・福祉を研究する県立中央病院や県立看護大学があり、教育を研究する上越教育大学があります。まさに上越市は教育と健康・福祉の街なのです。

私はこの教育・健康文化都市；上越は新たな試みをしていいのではないかと考えています。それは、「上越妙高駅」の前に二つの大学がサテライトをつくることです。上越教育大学は、教職大学院をもっています。これは現在、文科省が推進している教師育成プログラムです。このプログラムでキャリアアップを図りたい現職教員の方々が近隣にいっぱいいます。また一方、県立看護大学には同じようなキャリアアップのカリキュラムがあります。それは看護師の上をめざすプログラムです。専門看護師（CNS）を取得するものです。この二つのキャリアプログラムを夜間大学で上越妙高駅の前で開設したらどんなことが展開されるのでしょうか。勤務の終わった人が18時台の新幹線で上越妙高駅に向かう、そして19時から21時までの2コマの授業を受け、21時台の新幹線に乗れば22時には自宅に帰れるなどが可能になるのです。そして規定の単位をつみ上げれば見事なキャリアアップが完成するのです。そう望まれる富山、群馬、長野に住む方々はかなり多くおられると思います。それらの街からは1時間以内で通うことのできることを今度の北陸新幹線は可能にしたのです。望まれるは駅前のサテライトが行える施設を自治体がつくってくれることです。

東京から北陸新幹線で旅にでる人々に、長野を過ぎたところにこんなすばらしい中核都市があることをアピールしていきましょう！